

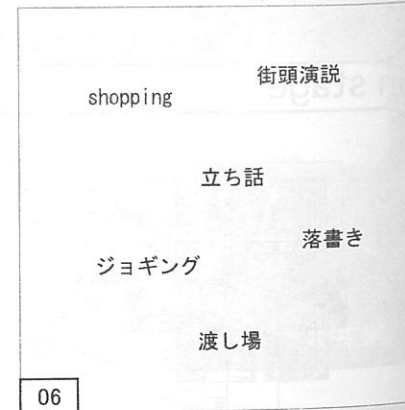
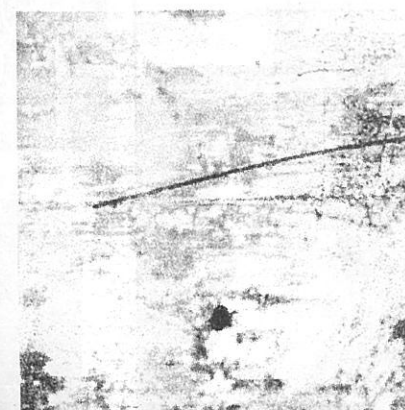
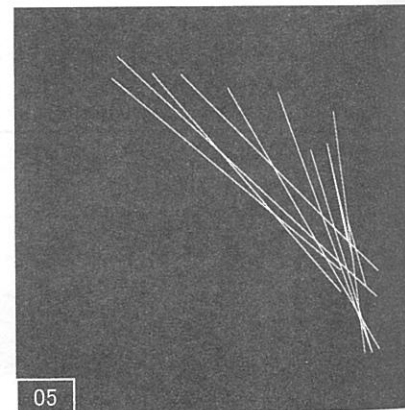
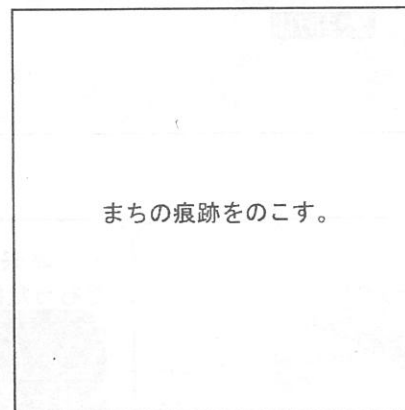
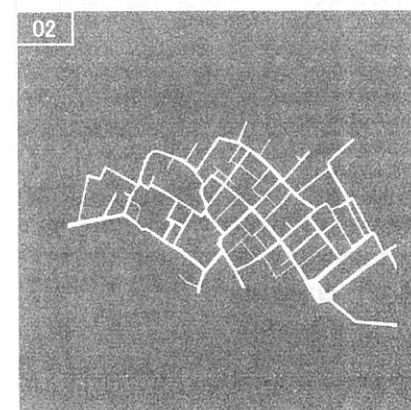
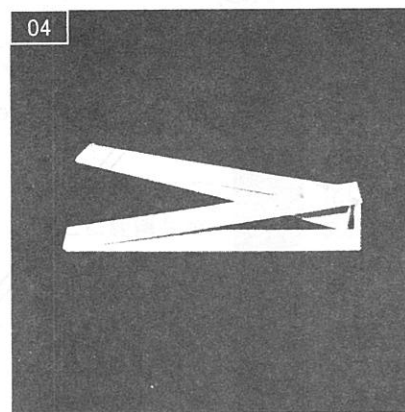


みちの記憶

k97036 桂 直子

site 東京都荒川区白髭西地区

- | | |
|----|--------------|
| 01 | 明治43年ごろのみち |
| 02 | 平成12年 |
| 03 | 再開発計画による道路 |
| 04 | 地形から読みとれるカタチ |
| 05 | 汐入のみちの方向性 |
| 06 | みちでのアクティビティ |



指導教員 伊藤洋子教授

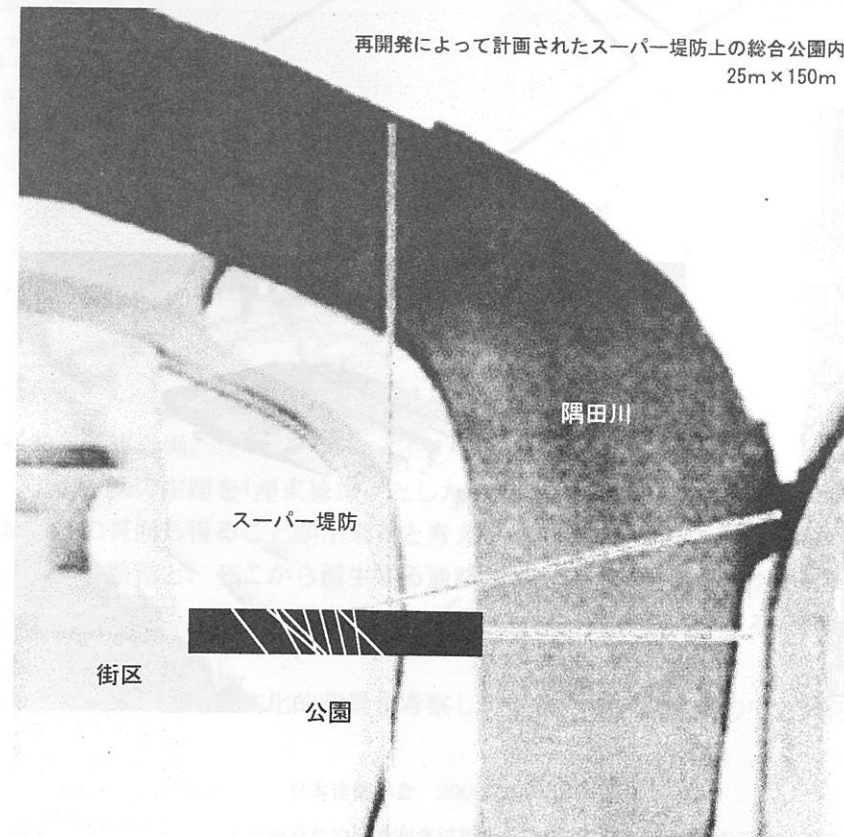
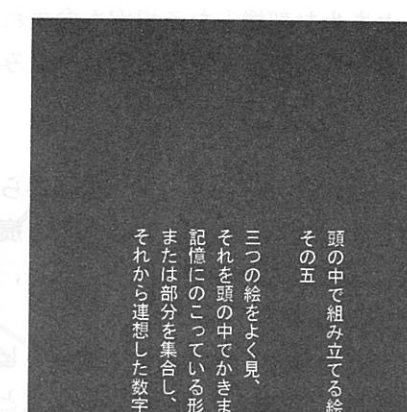
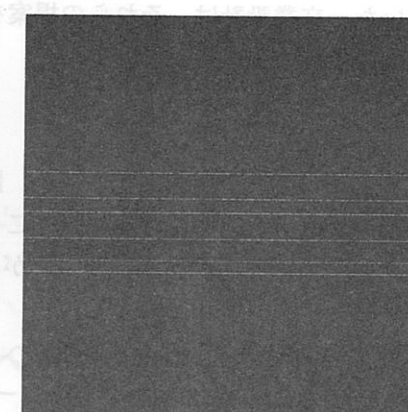
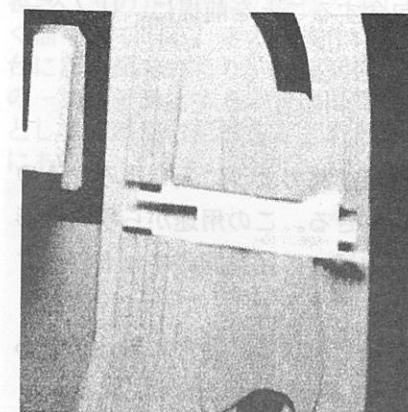
設計背景

汐入は隅田川が南に大きく折れ曲がるところに位置し、低湿地に囲まれた自然堤防上に形成された村落であった。関東大震災後の急速な宅地化を経て、市街地となっていた。住・商・工の混在する密集市街地であったが、建物は戦災を免れ、老朽化がすすみ、防災が問題になっていたため、東京都市街地開発事業によって開発が行われる。その結果、汐入のまちの景観やコミュニティは失われる。

汐入のまちは、たびたび水害の被害を受けてきた。そして、その影響によってまちのかたちの最大の特徴である、およそ45°に振れた道のネットワークが形成されてきた。みちの傾きは、大水が流れる方向とほぼ一致し、洪水時には水路として働いた。汐入のみちは、川の方角を、また地形を指し示すものであり、川の関係によってつくられたまちの歴史を刻みこんでいた。

設計主旨

再開発計画によってつくられるスーパー堤防上の公園内に、川とまちとの接合点となる施設を設計する。中高層集合住宅が建ち並ぶ街区と川をつなぐ道筋を想定し、計画によって新たに作られた地形条件と、望まれる通路パターンを内と外に包含する。汐入がもっていたコンテキストが備える方位や外形から生まれた形、道でのアクティビティを組み込ませることによって、現代における川とまちとの新しい関係性をつくりだすと同時に、再開発によってつくられだされた均質な場所でもない、ノスタルジーを漂わせる場所でもない空間をつくりだす。



再開発によって計画されたスーパー堤防上の総合公園内
25m×150m

頭の中で組み立てる絵
その五
三つの絵をよく見、
それを頭の中でかきまぜ、
記憶にのこっている形、
または部分を集合し、
それから連想した数字をキャンバスに書きつける

1962 ONO YOKO

Shop カフェ
ギャラリー
公衆トイレ
多目的スペース
水上バスのりば